

講演

経済価値ベースのソルベンシー規制の検討状況に関するフォローアップ

(2021年度JARIP研究発表大会パネルディスカッション)

東京経済大学	米山高生
金融庁	白藤文祐
明治大学	松山直樹
キャピタスコンサルティング	森本祐司
京都大学	河合美宏

2021年10月16日オンライン開催

司会 それでは、時間になりましたので再開いたします。次のプログラムは、パネルディスカッションです。演題は「経済価値ベースのソルベンシー規制の検討状況に関するフォローアップ」です。令和2年6月26日に公表された経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する有識者会議報告書の提言に基づき、金融庁では経済価値ベースのソルベンシー規制の導入に向けた検討を行っています。今般、令和3年6月30日時点における検討状況について、金融庁から公表されました。この報告書に関し、金融庁から白藤文祐主任統括検査官兼保険モニタリング室長をお招きし、さきの有識者会議の座長およびメンバーの方々を交えて議論を深めさせていただきたいと存じます。

それでは、有識者会議の座長で、本日の座長をお願いしている東京経済大学の米山高生先生にマイクをお渡ししたいと思います。米山先生、よろしくお願いします。

座長 米山でございます。本日は多数の方にご視聴いただきまして、ありがとうございます。今、司会の方がおっしゃったように、経済価値ベースのソルベンシー規制の報告書が出て、2025年までの工程表が示されて以来、各保険会社では相応の準備がなされてまいりました。経済価値ベースのソルベンシー規制というレジームへの基本的なフレームワークやスタンスについては、既に2021年3月発行の『リスクと保険』第17号における私の寄稿の中で示した内容と、何ら変わるものではありません。ところで、今般、金融庁から「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する検討状況について」というレポートが公開されました。工程表に基づきまして当局および保険会社各社では相当のご努力をされておられますが、新しいことへの挑戦を含みますので、実務的な面においては、検討すべき課題も生じているのが現状です。

今回は、一昨年に当学会でおこなったパネルに引き続きまして、経済価値ベースのソルベンシー規制を取り上げ、2025年までの道のりの中で保険実務およびそれを理論的にサポートする研究者が克服しなければいけない課題について、主として学術的な観点から検討するという趣旨のパネルを催すことになりました。本日のプログラムは、このプレゼンにしめしたとおりでございます。各パネリストの紹介は事前ファイルに掲載されておりますので、そちらをご参照ください。

一つ、ここで申し上げたいことがあります。質問に関するお願いでございます。チャットの中に「質問受付者」というものを設定しておりますので、こちらから質問していただければ助かります。特定のパネリス